

## 【総評】

受験生の皆さんお疲れさまでした。今年の入試は、高難度だった昨年よりさらに難化し、新しい傾向の出題も見られました。緊張の中、実力を十分に発揮できなかったという感想をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、まずは全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。

高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることは間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように生かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧になることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れさまでした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

## ●出題内容・形式

形式面では昨年から大きな変更はありませんでした。内容面では資料や問題文の読解力を重視した近年の傾向がさらに顕著になり、時間の制約がある中で読みこなすことは難しかったと思います。また、国語で「作品や資料を見て、自分の考えたことや感じたことを書く」新傾向の記述問題が出題されるなど、表現力が問われる出題も増えていきます。今後も高校入試はもとより大学入試でもこのような傾向が続くと考えられますので、それを踏まえた学習が必要になるでしょう。

## ●難易度

5教科の合計としては、全日制の合格者平均が230点程度と低水準だった昨年をさらに下回ることが予想され、全体としてかなり難しい出題だったと言えます。前述の通り、どの教科も読解量や文章記述量が多く、総合力が問われた入試だったと言えます。また、記述問題では、中間点をどれだけ積み上げられたかにより、上位層でも大きく差がつきそうです。教科別に見ると、昨年に比べて国語・社会・英語が得点しにくく、数学・理科も昨年と同程度かやや易化した程度で、得点を積み上げることが難しかったと考えられます。普段のテストや模試の得点と差がついた人もいると思いますが、入試の難易度が変われば得点率も変わり、ボーダー予想も変わります。また、倍率や欠席者、志願者のレベルなどによってもボーダーは変動します。そのような観点もふまえて、事務局の分析と予想をご覧ください、参考にいただければ幸いです。

## 【国語】

●難易度…「文学的文章」が時代小説で、やや読みにくさがあったのではないのでしょうか。また、自分自身が感じたことを書く条件記述の問題が出題されるとともに、書き抜き問題が一題もなかったことから、自分の言葉で表現する力が求められました。平均点は、昨年より低くなると予想します。

●構成…大問は「言語事項」、「文学的文章」、「漢文」、「実用文」の4題。今年は、「説明的文章」の出題がありませんでした。一昨年は「文学的文章」、昨年は「説明的文章」、今年は「文学的文章」という出題になりました。漢字の読み、書き問題がそれぞれ一題ずつ減った（昨年はそれぞれ三題ずつ）ため、㊦「言語事項」の配点がやや小さくなり、㊧「実用文」の配点がやや大きくなりました。

●㊨…2020年の「和歌」以来出題がなかった韻文の分野から「俳句」が出題され、表現技法として「擬態語」が問われました。短い実用文は、「役不足」の本来の意味とそれとは異なる意味が問われ、会話の内容からそれらの意味をとらえることができたが、言葉の意味を知らないと感じ取りづらかったと思います。

●㊩…やや難しい出題となりました。素材文の字数は約2250字で、昨年よりやや少なくなりました（昨年は「論説」で資料と合わせて約2500字、一昨年は「小説」で約2450字）。ただし、問七は、対話文を参考に、本に関して、現代と共通するところと異なるところを、「身近な例を用いて」表現する問題で、対話文の内容を読み取る力に加えて、具体例を挙げながら自分なりに表現する力が問われました。

●㊪…標準的な難易度の漢文でしたが、文章全体の内容をとらえなければ解けない問題が多く、全体の内容把握が苦手な受験生にとっては難しく感じられたと思います。差がつく問題になったのではないかと考えます。

●㊫…問三は、作品のどのような点について書けばよいのかを問題文から読み取ることができれば、難しくなかったと思います。問四は、葛飾北斎の「怒涛図」を見て、自分が感じたことを書く新傾向の問題で、資料と関連させながら記述する必要もあったため、難しいと感じる受験生が多かったのではないのでしょうか。

## 【数学】

- 難易度…昨年よりもやや易化したといえます。読解量は昨年よりもやや少なくなりましたが、図を用いて説明したり、計算過程を書かせる問いが多くを占めていたため、解答の時間配分が得点率を左右したかもしれません。平均点は昨年と同程度かやや高くなると予想します。
- 構成…昨年までの傾向と同様、図表や説明の文章の読解を含む問いが出題されたものの、おおむねオーソドックスな問題といえます。近年の北海道公立高校入試で顕著だった「論理的思考力」および「表現力」を問う問題が随所にみられました。全体を通して、これまでの演習量が出来栄を左右するような構成といえます。
- ①…各分野からの基本問題で、いずれも平易な問いでした。昨年および一昨年は大問で出題された「データの活用」単元ですが、今年は小問での出題となりました。
- ②…規則性を文字式で表したり、方程式へ展開する問い。題材・解法ともに比較的オーソドックスな内容でしたが、問1では、1つのことがらを多角的な視点で考えることができたか、問2では、前問までの内容を活かすことができたかが重要でした。
- ③…1次関数および2乗に比例する関数のグラフについての問題。一見、読解量・情報量が多く難しいように見えますが、問題として問われている内容はさほど難しくありませんでした。問2は、座標や長さを文字で整理し、立式まで持ち込めるかがカギとなりました。
- ④…平面図形についての問題。問2(1)では「平行四辺形であること」の証明問題が出題されました。三角形の合同や相似の証明ではなかったため、とっさに対応できず混乱した人もいるかもしれません。(2)の四角形の求積は決して珍しい出題ではないのですが、線分の長さの比と面積の関係に気づけないと対応が難しかったかもしれません。
- ⑤…図形と確率の総合問題でした。いずれも基本的な内容の組み合わせで構成された問いです。問1で出てくる図や「操作」は一見複雑そうに見えますが、落ち着いて数えられれば解答できる問題でした。問2も、三平方の定理を利用することに気づければ、スムーズに解答できたかと思います。なお、問2の配点は9点となり、非常に大きなウェイトを占めています。

## 【社会】

- 難易度…文章量が多く、取り組みにくいと感じた受験生が多かったと思います。ほとんどの問題が資料（略地図・グラフを含む）と関連づけられており、解答の作成に時間がかかることから、時間内にすべての問題を解くことができなかった人もいないのでしょうか。また、記述問題は、どこまで書けばいいのかわからない問題もあり解きにくいと感じたのではないかと思います。平均点は昨年と同程度かやや下回ると予想します。
- 構成…大問構成は昨年同様、小問集合1題、地理・歴史・公民の各分野から1題ずつの計4題、小問数は33問でした。各分野の配点は、①小問集合34点（15問）、②歴史22点（6問）、③地理22点（6問）、④公民22点（6問）となりました。完全解答の出題は合計で12問でした。
- ①…各分野からの小問集合で、地理・歴史・公民分野からほぼ均等に出题されました。難度の高い問題も含まれており、問3(3)のCSRの記述問題、問5の知床から見える北方領土の島の写真を利用した問題は、難度が高めでした。
- ②…歴史分野からの出題で、どの問題も難度が高めでした。問1は複数の資料からわかったことをふまえ、指定の字数程度で解答をまとめる力が求められました。問4は自分の知識とメモを参考にして表を判別する力が求められました。問6の記述問題は非常に難しい内容でした。日本の戦争の目的は書いても、語群から「大西洋憲章」を選び、アメリカの戦争の目的を書いた人は非常に少なかったのではないのでしょうか。
- ③…地理分野からの出題でした。A（世界地理）もB（日本地理）も知識があればすんなり解けるといえる問題ではなく、資料から得られる情報と自分の知識を結びつけて考えることが求められました。B問3の記述問題は、資料から軽量化の利便さに言及するのは難しかったのではないかと思います。
- ④…公民分野からの出題でした。問5の「集団安全保障」は書けた人が少なかったのではないかと思います。問6は資料を利用して書く問題で、それほど難しくはありませんが、時間切れで十分な解答を書けなかった人がいるのではないのでしょうか。

## 【理科】

- 難易度…昨 years が極めて難しく（平均 35.4 点）、今年はそれよりは易しくなりましたが、非常に難しいレベルであったと言えます。実験等の設定や内容は比較的オーソドックスなものでしたが、様々な場所から解答に必要な情報を得て思考する必要があり、時間に追われて十分に思考できなかった、または時間が不足し、すべての問題を解答できなかった人も少なくないのではないのでしょうか。
- 構成…小問集合の大問 1 題、実験等から出題する大問 4 題と、例年通りの形式でした。全体の小問数は 32 問で、配点は①が 28 点、②～⑤が各 18 点と、こちらも昨年と同じでした。
- ①…問 1 の穴埋め語句解答は、解答しやすいものが多かった印象です。問 2 以降でも基本的な問題を中心に出題されました。
- ②…生物分野（生命の連続性・細胞のふえ方と成長）…細胞分裂や成長に関する出題でした。記述解答の問題が多かったものの、観察や問題の内容は平易なものでした。問 5 は①の「比例」を思いつかなかった人が多かったかもしれません。また、②は表の 5 つの数字をどう扱うかがポイントでした。
- ③…化学分野（身のまわりの物質・水溶液）…水溶液を中心として、イオンにもふれた出題でした。実験内容は難しいものではありませんでしたが、ピーカーに入れた水の質量が 50g なので、それを念頭に問 2(2)を解答する必要がありました。
- ④…地学分野（気象とその変化・台風）…台風に関する出題でした。問 2 が実習 2 の結果の気圧と風向の変化から位置関係を推測した上で、台風の進路を図示するもので難しい問いでした。
- ⑤…物理分野（運動とエネルギー・物体の運動、エネルギーと仕事）…斜面を下る小球がもつエネルギーに関する出題でした。問 1(2)は表の数値をグラフに表すものでしたが、指示通りに縦軸の数値や、×印、●印を記入する必要がありました。また、問 2 や問 4 は表やグラフの数値をもとに思考・計算するもので、難しく感じた人が多かったと思います。

## 【英語】

- 難易度…昨年より平均点は下がると予想します。出題された語数に大きな変化はありませんでしたが、新傾向の問題もあり、難しいと感じた人も多かったのではないのでしょうか。例年同様、①のリスニング問題の所要時間は約 12 分で、②～④を残りの時間で解答することは非常に大変だったといえます。
- 構成…例年同様、①にリスニング問題、②に文法・イラスト問題、③に読解の集合問題（A は資料読解、B は短文読解、C は長文読解）、④に英作文という構成でした。
- ①（リスニング）…例年同様、問 1・問 2 は英文 1 回読み、問 3・問 4 は英文 2 回読みの出題となりました。問 4 では、内容を理解した上で解答が求められました。
- ②（文法・イラスト問題）…例年同様の出題形式で、標準的な難易度の出題となりました。
- ③A（資料読解）…例年同様の出題形式でした。問 1 は本文の内容から考えて、「すべて選ぶ」問題でした。資料を丁寧に確認する必要があり、難しい出題となりました。
- ③B（短文読解）…例年同様の出題形式でした。英文は読みやすいものでしたが、問 2 では、全体の流れと空欄の前後の内容を理解する必要がありました。
- ③C（長文読解）…会話とプレゼンテーションの場面の長文が出題されました。長文では、「nudge(s)」という単語の意味を本文やイラストから理解できたかどうか大きなポイントとなりました。
- ④（英作文）…模範解答のように答えることができたのは、一部の受験生だったと思われます。どの問題も、条件の内容にしたがって、自分で書ける英文を使って答える力が求められました。中間点をどれだけ積み上げられたかが、大きなポイントとなりそうです。